

スタンを征服しこゝにグルカン (Gurkhan) 即ち大汗の號を取りぬ。此等の事件は一一二八年及び九年の出來事なりと(ドーソン蒙古史卷一、四四三—四)記せり。此中ヌシはツシの誤寫なるべく(アラビア文字のTとNとの相違は僅かに一個の點の多少にすぎず)而してツシは大石(tashi)の音を訛りたる者なるべければもとより之が大石に關する記事なるは明らかなり。さて此等の兩史家の記せる所について注意すべきは大石が遼を去りて先づ至りし地を以て、イルチンユ河の上流域なるキルギスの國なりとなす點に於ては一致すれども、此の地を退きてより後の行動については、相違の存することなりとす。即ちアライウドデンによれば、こゝよりイミール河地方に退き、そこに城をも築きしなるにラシッドウドデンは少しもこのことを曰はずしてたゞウイグルの國に移りしことを述べたり。當時ウイグル族の據りし地方の頗ぶる廣かりしことは次節に於て述ぶるが如くなるが、然もこゝにいへるウイグルなるものは、遼史本文に見ゆる北庭の地に據りしものなるべきこと、「ウイグル〔の國〕に至り、最後にツルケスタンに至れり」と記さるゝによりても明らかなりといふべし。而して兩史家の記する所がたゞ是れのみに止まらば、後者は大石のイミールに退きしことを省略して記さざりしなりとも考へらるべけれど、然も前者は此の際大石が北庭、即ちウイグルの國に至りしことは少しも記するなく、反りて後年吹河<sup>チユ</sup>畔なるベラサグンに都して王位に上りたる後に於て、軍を遣はしてビシュバリク即ち北庭の地を取りしことを記せり(第五節参照)。されば兩者の記する所は、此の點に於て大に相違せるものにして、アライウドデンの記事を判斷すれば、大石はイルチンユ河上流の地方より、西南に退きてイミール河域に出で、こゝに城を築きて駐り、勢を養ひたる後、更に西南の方吹河地方に出で、國を建て、其の後初めて北庭を取るに至れりとなせるものにして、此の以前には決してこゝには出でざりしものとなせるなり。さ